

# 3号機600tC/C2号機の 作動油レベル低下の修理について

2016年1月28日

東京電力株式会社

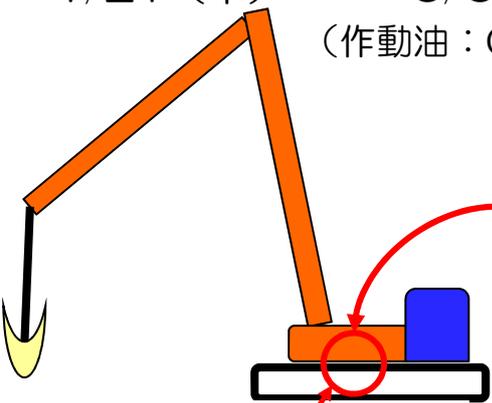


東京電力

無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

## 1. 時系列

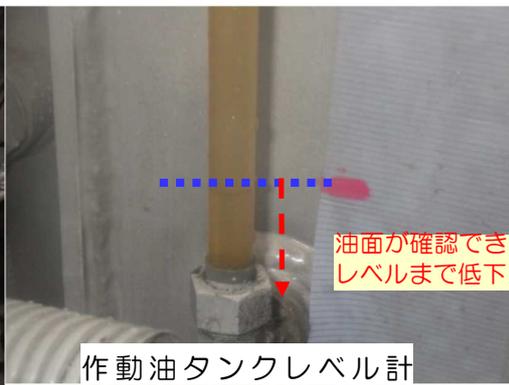
- 11/23 (月) 作動油タンクのレベル低下を確認。クレーン油圧配管等の確認を行ったが漏えい箇所を特定できず。
- 11/24 (火) ~ クレーン専門メーカー指導の下、目視による再点検を行い、作動油の漏えいがないことを再確認した。
- 1/13 (水) 点検のため低線量エリア4uヤードにC/Cを移動させた。
- 1/14 (木) 油圧ホースの詳細点検を行い、漏えい箇所の油圧ホースを特定、  
~1/19 (火) 交換した
- 1/21 (木) C/Cを3号機原子炉建屋南側（元の位置）へ移動予定。  
(作動油：C/Cの本体、ブームを動かす油)



油圧配管等確認箇所



油圧配管



油面が確認できない  
レベルまで低下

作動油タンクレベル計

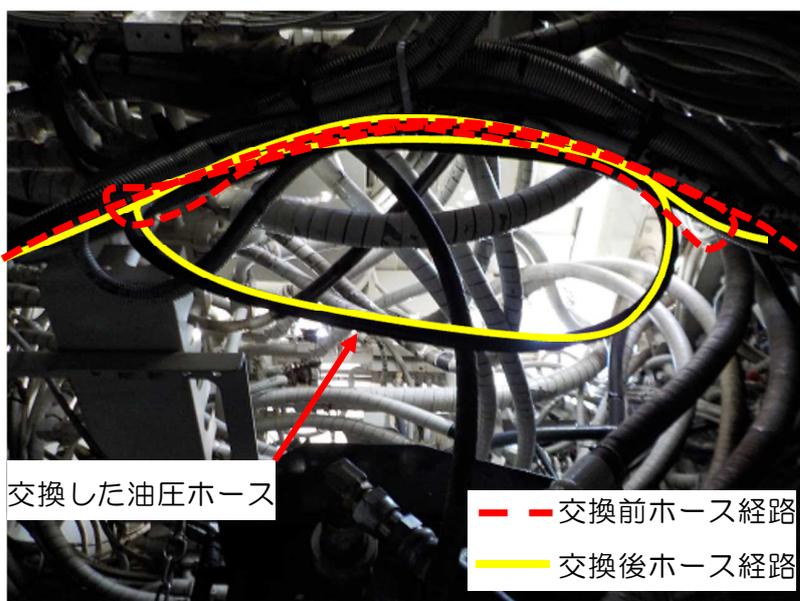
## 2. 修理箇所詳細



- 交換した油圧ホースは旋回用ブレーキ開放用に作動油を供給する油圧ホースである。ひび割れを起こしており一部から作動油の染み出しを確認した。



## 3. 修理箇所詳細



- ひび割れは油圧ホースが過度な屈曲状態にあったために生じたと考えられる。
- 交換後は屈曲状態にならないようにホース経路を変更した。

## 4. 故障原因と水平展開等

- 交換した油圧ホースのひび割れ、作動油の染み出しの原因
- 外的要因が認められないことから経年劣化と油圧ホースが屈曲状態にあったためにひび割れが生じたと考えられる。
- 当該油圧ホースは1Fで使用開始してから交換した実績はなく、使用開始から4年程度経過。
- 水平展開
- 3号機周辺で使用しているC/C1号機および1号機周辺で使用している2台の750tC/Cについて、同様の事象が生じていないことを確認済。
- 今後の対応
- 年1回の定期点検ではホース屈曲部を重点的に確認し、ひび割れなど漏えいに発展する箇所があった場合はホース交換を実施。
- 大型重機の保全計画、メンテナンス要員の教育・訓練計画の立案等。

## 5. 工程表

		11月		12月				1月				2月			
		3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W
当該事象発生前	C/C1号機作業				SFP周辺瓦礫撤去								遮へい体設置準備		
	C/C2号機作業		オペフロ除染		タンク蓋撤去／新規蓋設置								遮へい体設置準備		
現状	C/C1号機作業		オペフロ除染	SFP内調査及びSFP周辺機材撤去		C/C2号機移動対応		SFP周辺瓦礫撤去					遮へい体設置準備		
	C/C2号機作業					修理対応					片付け	タンク蓋撤去／新規蓋設置	遮へい体設置準備		

- 工程影響（＋約5週間）
  - C/C2号機修理対応（＋約8週間）
  - SFP内調査及びSFP周辺瓦礫撤去をC/C1号機で実施（－約2週間）
  - タンク蓋撤去／新規蓋設置を遮へい体設置準備と並行して実施できるよう調整（－約1週間）